第3回茅野市地域創生総合戦略進行管理有識者会議

|  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- |
| 開催日時 | 平成28年9月14日（水）　　午前10時から正午まで | | |
| 開催場所 | 8階大ホール | | |
| 公開・非公開の別 | 公開 ・ 非公開 | 傍聴者の数 | 1人 |
| 議題及び会議結果 | | | |
| 発言者 | 協議内容・発言内容（概要） | | |
| 事務局  委員  事務局  事務局  委員  事務局  事務局  委員  事務局  委員  事務局  委員  委員  事務局  委員  事務局  委員  事務局  委員  委員  委員  委員  委員  委員  委員  委員  委員  委員  事務局 | 会議次第  1　開会  2　挨拶  3　報告事項  (1)前回の会議録について  ―――――説明―――――  ※公開についてご了解いただきました。  4　協議事項  (1)基本目標3、4、5の進行状況について  【基本目標3-3縄文プロジェクトの推進による誘客の促進】縄文のガイドブックの刊行予定と、史跡ツアーを年1回としている理由を教えてほしい。また、八ヶ岳縄文の里マラソンに関連して茅野市で自転車競技の予定があれば教えてほしい。  縄文のガイドブックは、縄文プロジェクト実行市民会議の識る部会で作成中であり、今年度中に完成する予定である。史跡ツアーについては、来年度は複数回開催したい。  2週間ほど前に白樺湖周辺でオフロードの自転車競技を開催した。第1回目であり、参加者は100人未満であったが、更に盛り上げていきたいと実行委員会で話が出ているので、協力していきたい。また、ビーナスライン広域連携協議会でも自転車競技の企画を検討している。  【基本目標3-3縄文プロジェクトの推進による誘客の促進】茅野市の縄文を紹介する英語のサイトがあるか教えてほしい。また、元駐英大使と話す機会があり、イギリスでは縄文文化が注目されつつあるという話を聞いた。イギリス大使館とつながりができたので、イギリス大使館と連携して他の自治体と差別化が図れるような取組をしてみたらどうか。  【基本目標3-1-(2)「女性」と「健康」をキーワードにした誘客促進】Facebookを使って情報発信を行っているようだが、単に「いいね」を増やすことを目的とするのではなく、Facebookは誰に何を届けたいか有料でできる。単に情報を流すだけではFacebookでも沢山ある情報に埋もれてしまうので、ターゲッティング戦略を考えて、有料でも使った方がいいと思う。  尖石縄文考古館のホームページでは、茅野市の縄文、2体の国宝土偶、国特別史跡の紹介は英文でのページも公開している。また、考古館には英語のパンフレットもある。海外をターゲットとした取組としては、尖石縄文文化賞の受賞者にイギリス人がいるので、協力をいただき海外への発信をしていきたい。  Facebookを活用した情報発信は職員だけでは専門的な知識がないので、委員さんにアドバイスをいただきながら進めていきたい。  【基本目標3-1-(5)フィルムコミッション活動等の推進】KPIの小津安二郎記念・蓼科高原映画祭の来場者数がH26とH27を比較すると1,000人減っているが、原因が分かっていれば教えてほしい。  開催日が小学校の運動会などのイベントと重なったことが一つの要因と考えられる。また、アンケートなどからは若い人の参加が少なく、若い人が興味を持てるような上演作品やゲストも必要だと考えている。  【基本目標3-1-(1)4エリア（八ヶ岳、蓼科、白樺湖・車山、縄文の里）のエリア内連携による誘客促進】4エリアごとの滞在人口が分かれば教えてほしい。  県の観光統計では蓼科が150万人、八ヶ岳が18万人、白樺湖が79万人、車山が64万人、縄文の里（尖石縄文考古館）が5万7千人となっている。  具体的な事業の各エリアの連携事業の改革・改善策に各エリアへの補助金を「がんばっているエリアに多く配分することにした。」と記載してあるが、現時点であまり滞在人口が多く無いところでも伸びる可能性はあると思うので、補助金の配分方法を再度検討してほしい。  観光客を増やす目的が経済的な波及効果だとすれば、以前からも話しているように別荘所有者の滞在日数を増やすことが大事だと思う。例えば、茅野市でソフトクリームを食べて宿泊は諏訪湖の方面では、あまり茅野市にメリットがないので、茅野市にある1万戸の別荘を活かすことを考えた方がいいと思う。ちなみに、別荘の滞在日数が増えたかどうか分かるような指標があれば教えてほしい。  別荘地の水道使用量をKPIにしており、H26とH27を比較すると若干上昇している。  【基本目標4-1-(1)婚活支援】若者の出会いの創出事業の改革・改善策に、「平成29年度は別の内容で実施するよう検討する。」とあるが、どのようなことを考えているか教えてほしい。また、婚活は個人の問題で行政がそこをサポートするのは難しいと思うが、市で何らかの取組を行ってほしい。諏訪市では縁結びサポートチームを作っていて、婚活のイベント情報などを自分たちの地域だけではなく県内外に情報発信をしている。茅野市は茅野どんばんのあんどんづくりで出会いの場を作っているというが、昔と違い出会いの場を作るだけではなかなか進展せず、一人一人と向き合わないと心が開かず婚活へつながらない。茅野市社会福祉協議会の担当の方と話したが、婚活を行っている人の年齢層が高い人たちへの支援も必要だと思う。  茅野どんばんのあんどんづくり以外の取組として、今年度から公民館の事業で男女の出会いが生まれるような講座を始めている。今後、市で行う講座などを若者にターゲットを絞って、出会いの創出を行いたいと考えている。また、お話いただいた諏訪市の事例などを調べて、茅野市の取組の参考にさせていただきたい。  【基本目標4-1-(1)婚活支援】別の自治体での話であるが、究極の婚活支援は職があるということではないかということを聞いた。行政があまり直接的な婚活支援をするよりも、経済的な活動を活性化させることに集中した方が婚活につながる、というのが最近のトレンドになりつつある。  委員さんの指摘のとおりで、経済的に成り立っていかないと結婚という考えに至らない。婚活にどうつながっていくか分からないが、婚活支援という視点も入れつつ、生活の基盤が整うよう企業支援を行っていきたい。  【基本目標4-1-(1)婚活支援】結婚は農協においても問題になっている。茅野市に限らないが、農業後継者に独身者が多い状況であり、婚活の事業には当団体も参加させてほしい。  【基本目標5-1地域コミュニティ組織の充実に対する支援】集落が活性化するように、できる限り若い人が区に入るようサポートしているが、新しい人の受け入れは区によって温度差がある。区長さんは区の規約に則ってされているので、区長さんが悪い訳ではないが、自分の集落のことを自分たちで考えていかないと集落が成り立っていかなくなる。区費などを含めて区のあり方を考えなくてはいけないと思うが、それも区によって差がある。集落が少しでもいい方向にいくように応援できればと考えていて、今年度は区に対して新しい人の受け入れや地域の活性化などについてアンケート調査を予定している。  私の区も高齢化してきている。高齢化してくると区費の負担も大きくなるので、行事の見直しなどの話も出ている。中高年齢者が増えていく中で、どうやって区を活性化していくか、市の職員には地区の相談を受けるなど前向きな活動支援も行ってほしい。  【基本目標5-1地域コミュニティ組織の充実に対する支援】公民館活動で様々な行事が行われているが、行事によっては役員だけしか参加しないような行事がある。役員の人も義務的に参加していて、行事の精査をしてく必要があると思う。区によっても違うが、公民館活動の説明会で必要のない行事は辞めていくよう市から指導してほしい。  【基本目標5-1地域コミュニティ組織の充実に対する支援】都内で茅野市出身者の方と会うことが多く、区の煩わしさがあって東京へ出て来たという話をよく聞く。また、茅野市に残っている人も地域で生活していくために、意見が言いづらいということもあると思う。ただ、これだけ長い間この地域で人々が生活してきたということは、そこに英知があったのだと思う。例えば区の運動会は江戸時代や明治時代からあった訳じゃないし、御柱のラッパも縄文時代からあった訳じゃなく、結果として今そうなっている。そういった変化が時代時代でできる柔軟性のある文化の地域だと思う。それがいつの間にか、その柔軟性が失われているのかもしれないので、もう一度、柔軟性を持って10年後の地域を考えていくことが必要だと思う。インターネットを使えば、会議のときは必ずその場にいなくても参加できるし、都内に行った人も会議の様子を知ることができる。時代に合わせた変化をしながら、区に対する理解も深めてもらうことが必要だと思う。  茅野市で唯一無二のものと考えたとき、それはそこに住む「人」だと思う。どこへ行っても観光地や自然はあるし、それと競争しても仕方ないと思う。「人」とつながって、茅野市を訪れる人もいれば、茅野市に住む人もいる。この会議にもっと若い人を入れて、地域のあり方を議論することが必要だと思う。  区では前からいる人は意見が言えるが、新しく入ってきた人は意見が言えず我慢しているという話があった。前向きに人と人がつながっていくというのは難しいと思うし、人と人のつながりをどうやって作っていくかというのが長い目でみたときに課題だと思う。  多子世帯への支援で、保育園料の軽減があるが、子どもが成長し、高校や大学へ通う頃になると更に経済的な負担が大きくなる。その子どもたちが戻ってくれば地域の力になるので、奨学金を受けた子どもが地元に戻って、地元に就職すれば奨学金は貸与ではなく支給となる制度を考えてほしい。  茅野市の認知度、知名度は低いと感じることが普段の生活でよくある。「茅野市」を「ちのし」と読めない人もいる。茅野市の認知度、知名度、魅力をアピールする取組を更に力を入れて行ってほしい。  【基本目標3-1-(3)学習旅行の誘致促進】学習旅行を農業体験などで誘致することは難しいことであるが、非常に良いことだと思う。当団体も協力できるので、ぜひ取り組んでほしい。  茅野市に修学旅行で来る学校は少なく、学習旅行としてホットステイや野外活動研修など日帰りが多い。トレンドとして修学旅行は体験・交流型のものが多くなっている。いろいろな要因はあると思うが、沖縄や北海道の修学旅行が減ってきていて、長野県は南信地域が増えてきている。学校のコンセプトとして、修学旅行や学習旅行を通じて生きる力を養いたいということがある。単なる農業体験だけではなく、その地域の生活の体験、特にホームステイが求められている。既存の業者、ホテルなどと連携しながら本格的な修学旅行の誘致に着手し始めたところである。  5　その他  6　閉会 | | |
|  |  | | |